

## あ と が き

この冊子を手にとって下さり、ありがとうございます。

これを読んで下さったあなたは、依存症の方やご家族の支援にお困りではないでしょうか。私たちは、あなたと同じように、悩み戸惑いながら依存症に関する相談に取り組んできました。

今回、これまでの支援経験を振り返ったり、対応場面を具体的に想定することで、どのような冊子が使いやすいかを考え、推敲を重ねてこのマニュアルを作成しました。

依存症の方への支援は難しく、時間がかかります。一生懸命努力しても先が見えなくなってしまうこともあります。しかし、どんなに大変でも経験を積み重ねることは支援者自身の成長につながります。

この冊子を活用していただくことで、支援者として共に成長していけることを願っています。

プロジェクトチームメンバー一同

## 援助者の変化のプロセス



### 1 援助者としての限界の直面

援助者としての役割意識・義務感からクライアントを回復させようと試行錯誤を繰り返すが、回復させることができずに息詰まる。



### 2 援助者が回復の可能性に気づく

- ・相談の限界を認め、これまでと違う援助方法を受け入れる。
- ・回復者の姿を見ることで、回復する病気であることを実感する。
- ・回復者との関わりを通して回復した姿をイメージし、援助者自身のあり方に目を向ける。



### 3 援助者自身の変化

- ・援助者としてできる事、できないことの区別が明確になる。
- ・援助の役割が明確になることで、援助者の具体的な行動が変わり始める。
- ・援助者自身の課題を自覚し、取組み始める。



### 4 一人の人として共に成長

病気を乗り越えることは、人間的成長につながると捉え、回復者との関わりや、自らもサポートを受け続け、お互いの成長を喜ぶこと、援助者個人としての価値観を変える。



松下哲也「アルコール依存症に関わる援助者の変化のプロセスに関する研究～アルコール依存症と家族の回復のプロセスを基にして～」より一部改変

## プロジェクトチームメンバー

所 属		氏 名	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部診断治療開発研究室長		近藤あゆみ	○	○	○
原宿カウンセリングセンター		高橋 郁絵	○	○	○
国立市健康福祉部 しょうがいしゃ支援課 相談係 係長		加藤 尚子	○	○	○
多摩総合精神保健福祉センター 広報援助課 相談担当 課長代理		谷合 知子	○	○	
多摩総合精神保健福祉センター 広報援助課 相談担当 課長代理		山田 俊隆			○
多摩立川 保健所	地域保健推進担当課長	河西あかね	○	○	○
	保健対策課長	大石 修	○	○	
	保健対策課長	吉川 秀夫			○
	保健対策課 地域保健第一担当	村井やす子	○	○	○
	保健対策課 地域保健第一担当	中嶋真友子	○		
	保健対策課 地域保健第一担当	吉原 恭子		○	○
	保健対策課 地域保健第一担当	山崎 実咲		○	○
	保健対策課 地域保健第一担当	佐藤麻理子			○
	保健対策課 地域保健第一担当	松原 悠			○
	保健対策課 地域保健第二担当	西山 直美	○	○	
	保健対策課 地域保健第二担当	栗原 玲子	○	○	○
	保健対策課 地域保健第二担当	松下 哲也	○	○	
	保健対策課 地域保健第二担当	高木 賢一	○		
	保健対策課 地域保健第二担当	石川 里菜		○	○
	保健対策課 地域保健第二担当	山川 哲也		○	
保健対策課 地域保健第二担当	吉岡知奈美			○	

(敬称略)

薬物依存症者をもつ家族を対象とした個別面接の進め方  
－支援者用マニュアル－

平成29年（2017年）12月発行

作成 東京都多摩立川保健所

監修 近藤あゆみ 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

高橋 郁絵 原宿カウンセリングセンター

発行 東京都多摩立川保健所

東京都立川市羽衣町二丁目63番

電話 042-524-5171

印刷 株式会社ウィザップ